

Usability & Accessibility

12 農林水産省サイト



アクセシビリティ分析担当
濱田英雄
 (株)ユーディット 主任研究員
 hamada@udit-jp.com



ユーザビリティ分析担当
石田直子
 (株)ユーディット 研究員
 naoko@udit-jp.com

(株)ユーディット
 URL <http://www.udit-jp.com>
 「情報のユニバーサルデザイン」を目指し、アクセシブルなWebの制作やコンサルティング、高齢者や障害者も利用できるユニバーサルデザインの情報環境、製品の調査などを行っている。

情報をいかにわかりやすく見せるか、デザインやナビ機能に一層の努力を

牛肉偽装事件は、生産農家から流通・小売まで食品業界全体に大打撃を与えた。表示内容の信頼性を著しく損ない、消費者に加工食品への不安感を植え付けたこの問題も、農林水産省の狂牛病(BSE:牛海綿状脳症)対策の不備に乗じたものだった。国民注視のなか、農林水産省サイトではどのような形で情報を公開しているのか。濱田・石田両氏が「ユーザビリティ&アクセシビリティ」問題について同サイトを調査する。

サイトでの文書公開にはユーザーへの配慮が必要

省庁などでは、配布資料をPDF化してサイトに掲載することが多いようです。

PDFには

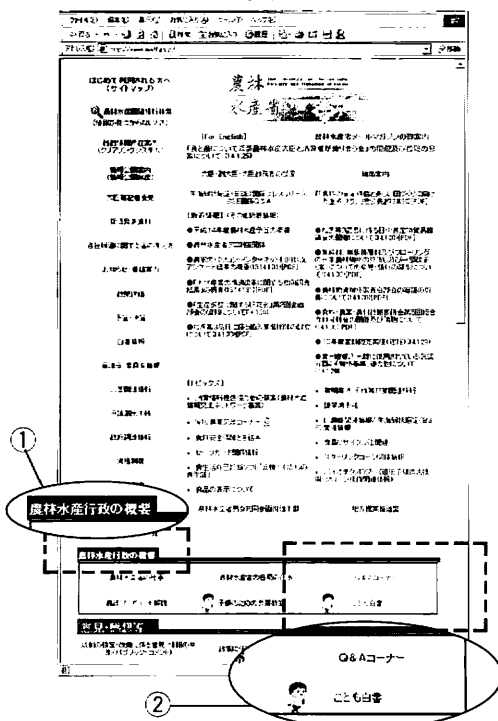
- データ容量が小さい。
- 改ざんされにくい。
- AcrobatReader(文書閲覧ソフト)は無料でダウンロードできる。
- オリジナルのレイアウトイメージをほぼ忠実にデータ変換できる。
- ワープロなどで作成した文章を、印刷と同じ感覚でファイル化できる。

といった利点があります。

しかし、ユーザビリティの見地から考えると、PDFはWebサイトでの文書公開には向いていない点もあります。HTMLならば実現可能なユーザーに対する配慮が、PDFではできない場合があるからです。たとえば、サイト共通のナビゲーションボタンなどは、PDFでは当然ながら引き継ぐことができません。HTMLなら文字の自動折り返しをしますので、画面からはみ出すことはあまりありませんが、PDFは読める文字サイズにすると画面をはみ出していることがあります。また皆さんも、AcrobatReaderが突然起動してじれったい思いをした経験はありませんか?

PDFは文書をデータ化するツールの一つと考えて、状況を考えて使い分けていきましょう。たとえば、印刷レイアウトに強い点を生かして、マニュアル類などはPDF版が

図1 <http://www.maff.go.jp>



ユーザビリティ総合評価 ★★☆☆☆☆

一口コメント トップページ以下のデザイン性が見られないこと、サイト構成がユーザーに伝わりにくいことが災いして、これだけの情報量が単なる寄せ集めに見えています。きれいでまとまりあるサイトの要素を持ちながらも、各メニューの自己主張が折り合わず、隠れてしまったデザインが多く見られました。

アクセシビリティ総合評価 ★★☆☆☆☆

一口コメント テキスト中心のサイトですが、裏側をのぞくといろいろ問題が出てきました。また、文字のサイズやデザインなど統一した方が良いでしょう。コーナーごとの配色変更は悪くないのですが、色の使い過ぎのような気がします。音声ブラウザではかなり問題があります。

あると、印刷された紙を見ながら作業をしたい人には便利です。ただし、この場合もHTMLバージョンも用意しておく、よりユーザーへの配慮が高まります。

音声ブラウザへの対応にみられるPDFの問題点

農林水産省に限らず、サイトによく見られるPDFによる情報提供ですが、アクセシビリティ上かなり問題があります。まず、基本的な部分ですが、HTMLからPDFにリンクすることを事前に認識できるようにしなければいけません。誰しも、何も書かれていないリンクをクリックする場合はHTMLへのリンクだと思います。本サイトでも、いきなりPDFが立ち上がる箇所があります。

Acrobat Readerは無料で提供されていますが、ソフトウェアをダウンロードする前には、フォームによる「ユーザー登録」をする必要があります。しかし残念ながら、このサイト自体も初心者にわかりやすいものとはいえません。したがって、誰しもがこのソフトで自由に閲覧できるとは限りません。

とくに、視覚障害者が使う音声ブラウザでのダウンロードやインストールは、かなりの知識がなければできません。仮にインストールができて、ファイルが開けても、このままの状態では読むことはできません。PDFから、テキストを選択し、切り出して音声対応のソフトに張り付ける、という大変面倒な操作をしなければ読むことができないのです。それさえも、PDFにセキュリティがかかっていないことが前提条件になります。

Acrobat ReaderもVer.5.0.0になって、アクセシビリティ機能として、一部の音声ブラウザでは読めるような開発努力がなされていますが、まずはファイル作成時にキチッと構造化した上で設定しておく必要があるでしょう。

ユーザビリティについて (解説/石田直子)

ユーザーにサイトの目的が伝わること ★★

サイトの目的を伝えるにあたって、コンテンツ項目の文字の大きさや太さにメリハリをつけることが有効です。このトップページでは、各コンテンツのタイトルも、その中に含まれる項目へのリンクも、ほぼ同じサイズの文字で画面一面に書かれています。とくにタイトルはサイトの内容や目的を伝える重要な情報源になり、これが見つけにくいとサイト目的が伝わりにくくなります。

全体像がトップページで把握できること ★★

「検索」「サイトマップ」「各種報道に関する省の考え方」といった項目がページ上部にたくさんありますが、あくまでもサイトの補助機能です。これらのせいでメインコンテンツのタイトルバー(図1-①)がかなり下になり、画面サイズが小さいパソコンでは、メインの内容がすぐに見つけられません。

トップページの「施設事業案内」(図2)ではかなり詳細な内容が表示されていますが、はたしてここで必要でしょうか。詳細内容はもう一つページを用意して表示しましょう。各施設の項目をクリックすると、同じ内容の別ページが表示されるので、こちらを代用されてはどうでしょうか。

デザインや構成が統一されていること ★

このサイトは文字を中心に構成されていますが、ヘッダとフッタのデザインと主要項目へのナビゲーションを作成しておくべきでしょう。タイトルバーだけのシンプルなデザインは統一されてみえますが、文字や色が少しずつ違っているため、寄せ集めた印象を与えます(図3-①、②)。

最悪なのは図4のページです。急いでページを作る必要があるときも、標準デザインを作っておけばこのようなことにはなりません。各カテゴリで独立したページデザインをしているため、サイト全体の構成がユーザー側でイメージできません。たとえば、「農林水産行政の概要」(図1-②)に含まれる項目を見ると、それぞれデザインが違い、同じカテゴリの項目とは思えません(図5-①、②、③)。カテゴリ分類の意味がなくなり、ユーザーがサイトの内容を整理できなくなります。デザインの統一はサイト全体の統一感を出すだけでなく、ユーザーのサイトのイメージ作りにも必要なのです。

必要な情報が適切な場所にあること ★★

最低限のナビゲーションとして、トップページへ戻るボタン、一つ前のメニューへ戻るボタンの2つが必要です。その次に求められるものが各メニューのトップへのナビゲーションボタンの表示です。このサイトでは最低限の2つのボタンがないページもありました。

次の動作がわかりやすいこと ★★

トップページの文字はマウスを合わせなければ、リンクの存在がわかりません。文字や画像がリンクであることを示すため、リンク文字の色は変え、ボタンは押せる形状にしておきましょう。

予想されたフィードバックが返ってくること ★★

前頁でも書きましたが、いたるところにPDFへのリンクが配置されています。PDFはAcrobat Readerが起動されるため、ユーザー側には予期せぬ動きとなってしまいます。本当にPDFでなければならぬ情報か、考えて使いましょう。

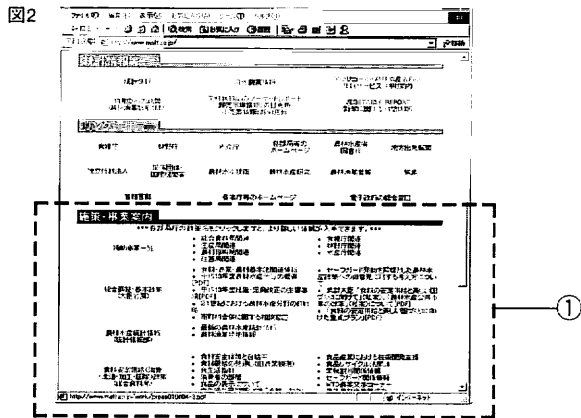


図3-① 大臣等記者会見

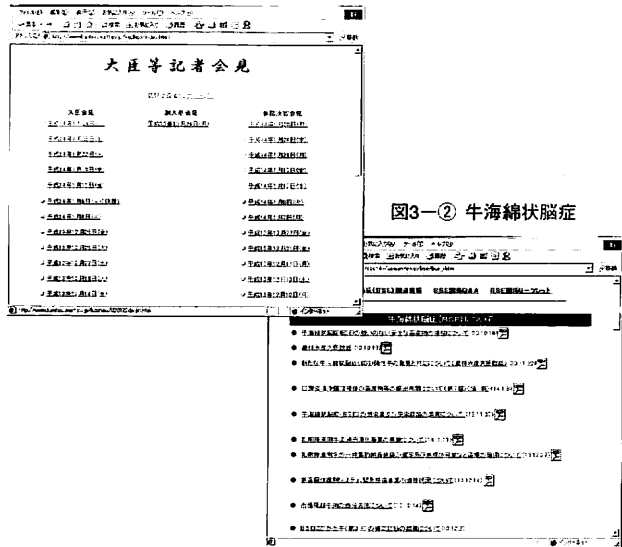


図3-② 牛海綿状脳症

図4 食糧の安定供給と美しい国づくりに向けた重点プラン

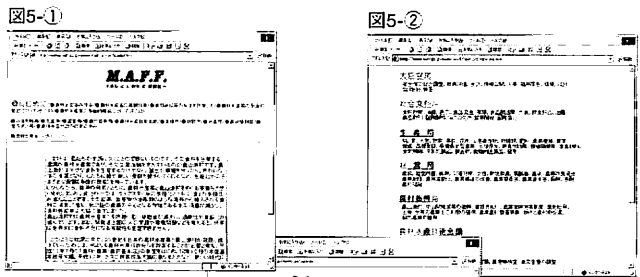
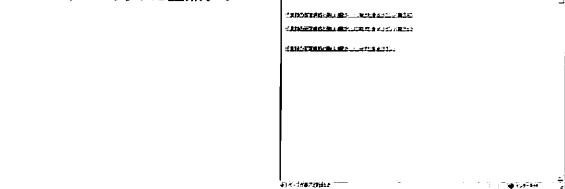
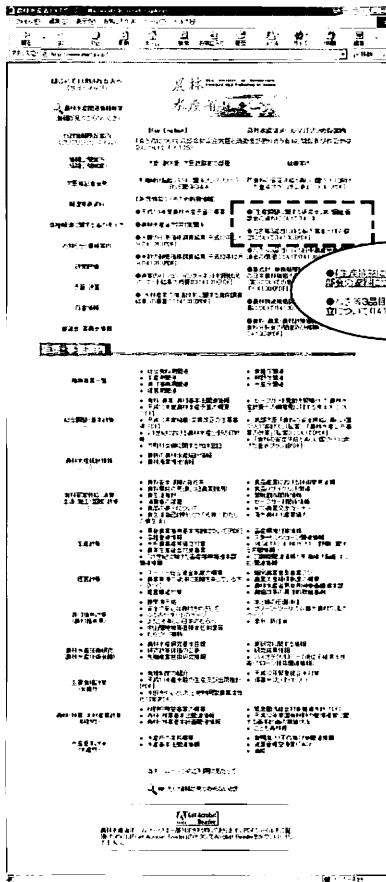


図5-③

アクセシビリティについて (解説/濱田英雄)

図6



画像にはALT属性をつけること ★★★

PDFを知らせる画像にALT属性がついていないため、音声ブラウザではPDFだとわかりません。また、適切でない箇所があります。

外国語の乱用はしないこと ★★★

カタカナ言葉が多少ありますが、説明もあるので、それほど問題ないようです。

<title>タグは的確につけること ★★

<title>が適切でないところがありました。また、<title>そのものがない箇所もあります。

背景と文字色はコントラストがあること ★★★

一部柄の入った背景があり、多少文字が読みづらいページがあります。

フレームの使用は必要最小限にすること ★★

一部のコーナーで突然フレームが使われています。また、フレームの元ファイルにはNO FRAMES要素を入れて音声やテキストブラウザに配慮しましょう。

新しい技術には代替手段を用意すること ★★★

見たところ、新しい技術は使われていないようです。

その他

【トップページ】(図6)

●リンクの下線

Java Scriptを使い、マウスポインタが当たると文字が赤色に変わり、下線の出るテキストリンクを使っています。これはNetscapeでは対応していないバージョンがあります。特定の環境でしか動作しないものは基本的に避けるべきでしょう。また、既読ページの色が変わらないのも混乱の原因になります。

●<table>タグデザインの問題

メニューが<table>を使ってデザインされていますが、音声ブラウザはテーブルのセルを左上から右に読み、端まで行くと、次の行の左端に戻るといった読み上げ方をします。本サイトのメニューの作り方では、せっかく分類分けをしていますが、音声では意図通りに伝わりません。

●内容量の問題

多くの情報が伝わるようにとトップページに詰め込みすぎると、かえってわかりにくくなります。また、音声ブラウザでは、目的の情報が探しにくくなります。もう少し整理した方がよいでしょう。

【農林水産省情報公開窓口一覧】(図7、図7-①、図7-②)

●正しいHTML

このページの表示が遅かったのでソースを見ると、Excelから直接HTMLに変換したようで、<title>タグもなく、117KBもありました。WordやExcelなどで書き出すと、不要なタグをいっぱい入れてしまいます。Excelからでもシンプルに書き出してくれるソフトを使うべきでしょう。ちなみに、不要なタグを取って修正したものが、図7-①、元が図7-②になります。このように、不要なタグを外せば5分の1以下になると思います。

【農林水産省 幹部職員名簿】(図8)

●表示方法

このページのリンク元になるメニューの「平成11年5月1日現在」からリンク先がHTMLからTXTに変わっていました。確かに通常はブラウザでも表示ができ、音声ブラウザも読み上げられますが、これはPDFと同じように別の媒体ですので、テキストファイルであることを明記するか、HTMLにした方がよいでしょう。

図7 <http://www.maff.go.jp/work/bunsyo/madoguchi.htm>

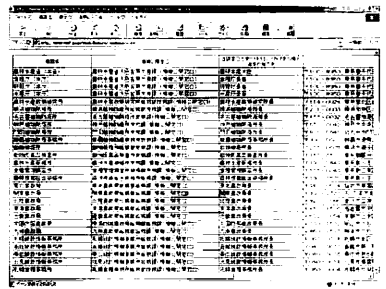


図7-①

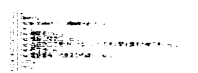


図7-②

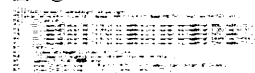


図8 <http://www.maff.go.jp/soshiki/kanbumeibo/kanbumeibo.html>

